

ローリングタワー組立構成例 (A-2)

各部材名	建枠 A-2 の段数	1 段	2 段	3 段	4 段	5 段	6 段
梯子型枠	A-2	2	4	6	8	10	12
布枠	A-8040	-	-	-	1	1	1
交差筋違	A-14	2	4	6	8	10	12
連結ピン	A-20	-	4	8	12	16	20
アームロック	A-125	-	4	8	12	16	20
アームロック	A-126	4	4	4	4	4	4
手摺柱	A-25	4	4	4	4	4	4
手摺 A	A-31	4	4	4	4	4	4
手摺 B	A-32	2	2	2	2	2	2
手摺 C	A-32〇〇	2	2	2	2	2	2
鋼製布板	BKN-6	3	5	7	9	11	13
巾木 (長)		2	2	2	2	2	2
巾木 (短)		2	2	2	2	2	2
ジャッキ付車輪	J-726	4	4	4	-	-	-
ジャッキ付車輪	J-728	-	-	-	4	4	4
アウトリガー	J-726 用	4	4	4	-	-	-
アウトリガー	J-728 用	-	-	-	4	4	4
作業床高さ (mm)		1741~ 1851	3290~ 3400	4839~ 4949	6443~ 6553	7992~ 8102	9541~ 9651
質量 (Kg)		212	292	374	481	562	643
許容荷重kN(Kgf)		2.45(250) (但し、作業床面積2㎡以上)					

※3段半以上は、ジャッキ付車輪 (J728)、最下段に布枠 (A8040) ×1 を使用します。

ローリングタワー高さの規制

① 控棒 (アウトリガー) がいない場合

脚輪 (キャスター) の下端から作業床までの高さ (H) m と、ローリングタワーの外郭を形成するキャスターの主輪間隔 (L) m とは次の式を満足するものとする。

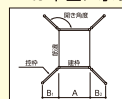
$$H \leq 7.7L - 5$$

② 控棒 (アウトリガー) を有する場合

控棒を有するローリングタワーにあっては、①の式に於ける (L) m の値を、次の式により得られる値とする事ができる。

$$L = A + 1/2(B1 + B2)$$

上式において A・B1・B2 は下図に示すものとする。



許容荷重

ローリングタワーの許容荷重 (W) kgf は、作業床の面積 (A) m² に応じて次の式により得られた値とする。

$$A \geq 2 \text{ のとき } W = 250 \text{ kgf}$$

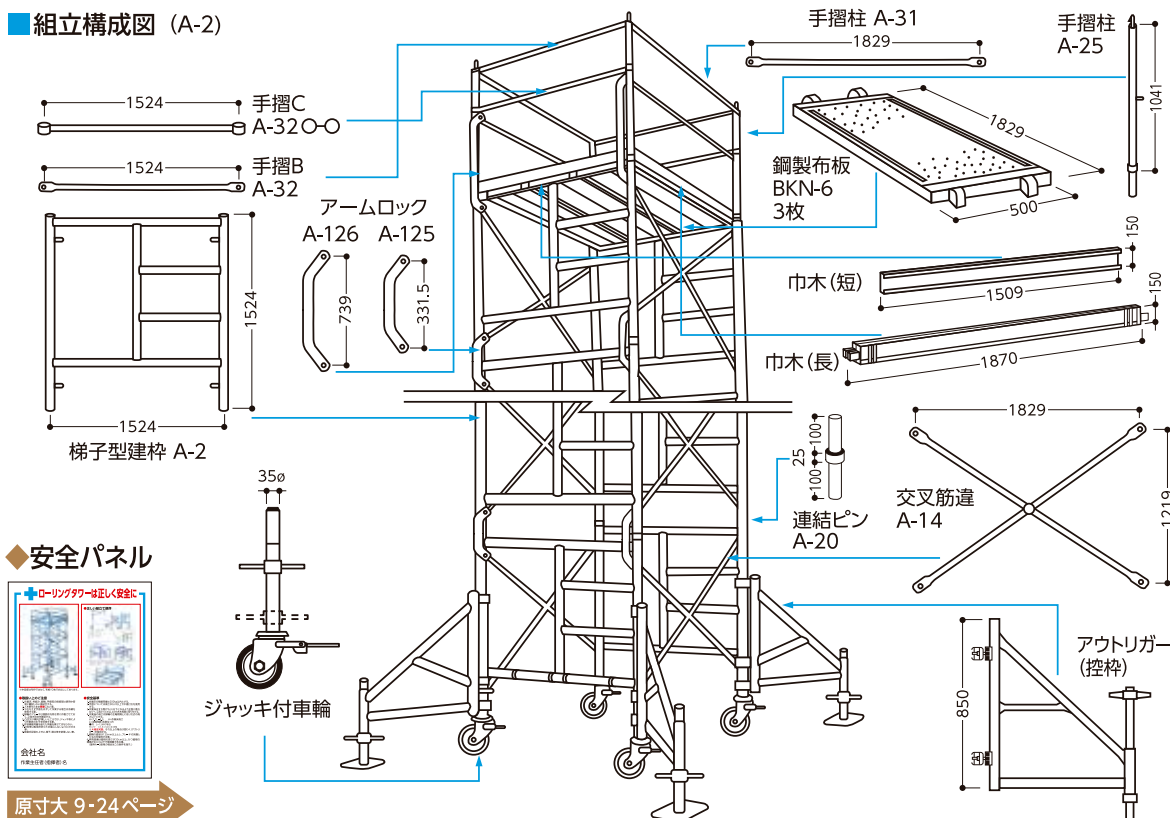
$$A < 2 \text{ のとき } W = 50 + 100A \text{ (kg)}$$

以上の式は、仮設工事会発行「移動式足場の安全性技術基準」によります。

使用上の注意

- ① 足場に積載荷重を表示し、その荷重以上積載しないこと。
- ② 足場に偏心荷重、水平荷重および衝撃荷重をなるべく与えないようにする。
- ③ 作業床上では、脚立、梯子などは仕様しないこと。
- ④ 枠組構造部の外側空間を昇降路とする移動式足場は同一面より同時に2名以上の者が昇降しないこと。
- ⑤ 作業者などを乗せたまま移動しないこと。
- ⑥ 傾斜面での使用については、脚柱ジャッキによって枠組構造部を鉛直に立て、作業床の水平を維持すること。
- ⑦ 作業者が無理な姿勢で作業を行わないで済むように作業箇所付近に近接した位置に足場を設置すること。
- ⑧ 脚輪のブレーキは移動中をのぞき常に作動させておくこと。
- ⑨ 移動路面および移動空間にある障害物は撤去すること。

組立構成図 (A-2)



安全パネル



原寸大 9・24 ページ